

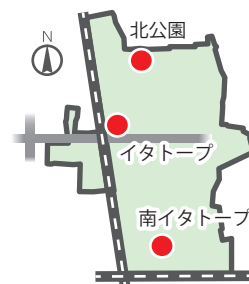


## 生物多様性保全活動

### 一保全地の活用とモニタリング

三菱電機グループは、人々の暮らしを支える「生物多様性」の保全活動を全国の事業所で推進しています。伊丹地区ではビオトープなどの機能緑地を活用し、在来生物の保全や従業員の環境教育を継続しています。今年度、これらの緑地が「**自然共生サイト\***」に認定されました。

\*自然共生サイト：民間などによる効果的な生物多様性増進の活動が行われている場所として国が認定した緑地



## Topic1

### 自然共生サイトに認定されました！

三菱電機グループ「環境計画 2025」では「機能緑地の自然共生サイトへの登録」を目標に挙げています。伊丹地区では、イトトープや北公園などでの保全活動の成果が評価され、昨年 12 月に地区内の緑地 9 か所が「自然共生サイト」に認定されました。

在来種の生息地維持や改善、外来種の防除、従業員への環境教育の取り組みなど生物多様性の増進に貢献できるよう、さらに努めて行きたいと思います。



1月に伊丹地区で認定証授与式を開催。環境省から伊丹製作所の橋本所長に認定証が授与され、伊丹製作所・電子通信システム製作所・先端技術総合研究所の各環境推進責任者に認定盾が贈られました。

## Topic2

### 北公園で生物観察会を実施しました



秋空を背景にムクロジの黄葉がきれいでした。兵庫県では希少な樹木で、北公園で保全しています。



セミのぬけがら

木々の葉が色づき始めた 11 月の北公園で、今年も従業員を対象に生物観察会を実施しました。北公園は伊丹地区の中でも特に樹木が多く、森林のような環境です。今回は植物と、その植物を利用して生活する昆虫などを観察しました。

参加者みんなでセミの「ぬけがら」を調査して、都市部に住む生きものの状況を学びました。また、希少な樹木「ムクロジ」と人の生活の関係を知り、生きもののや自然の文化的な価値について理解が深まりました。

## Topic3

### 冬のビオトープでモニタリング

冬が深まる 1 月には、イトトープと南イトトープで生物モニタリングを実施しました。どちらのビオトープでもトンボたちのヤゴが無事に越冬していました。さらにイトトープでは、植物の根元で越冬するクビキリギスやチョウセンカマキリの卵が見つかりました。

伊丹地区のビオトープは、水辺のトンボだけでなく陸上の昆虫の生息場所にもなっています。こういった昆虫は鳥が食べるので、ビオトープは冬を越す鳥たちの餌場としても機能していると考えられます。

※ 秋に見つけた成虫。名前に「チョウセン」と付きますが在来種です。



クビキリギス

キリギリスの仲間で、春になると大きな声で「ジュー♪」と鳴きます。



チョウセンカマキリ（卵）

イトトープの後ろの壁に産みつけられた卵。春になると沢山の幼虫が孵化します。



成虫